

特集

ラオス・カンボジア

子どもたちの時間

■ 横松心平氏のラオス訪問記

■ 地方紙へ投稿のお願い

書き損じハガキで支援する企業

■ キヤノン株式会社



子どもたちの時間割

ラオス・カンボジア



先生が不足している、教材がない、学校に給食施設がない等、様々な理由で、同じ義務教育でも日本とラオス・カンボジアの教育システムに違いが見られます。

今号の特集では、両国の基本的な教育の仕組みと特長について紹介します。

*洪水のためタイ事務局からの情報が間に合いませんでした。タイについては次号で掲載する予定です。

【小4-5の時間割の例】

		月	火	水	木	金
1	8:00~8:45	朝 礼	算 数	社 会	算 数	道 徳
2	8:45~9:30	ラオス語	算 数	社 会	算 数	算 数
3	10:00~10:45	ラオス語	社 会	英 語	ラオス語	算 数
4	10:45~11:30	ラオス語	ラオス語	英 語	ラオス語	ハンドクラフト
	昼 食					
5	13:30~14:15	音 楽	体 育	図 工	体 育	ハンドクラフト
6	14:30~15:10	ラオス語練習	算数練習	道徳実践	美術実習	ホームルーム
7	15:30~16:30	課外授業	課題授業	課外授業	課外授業	集 会



※課外授業は教材作り、仏教、植物栽培、体育、音楽等を行う。

ラオス

小学校5年、中学校4年、
高校3年、大学4年制。
義務教育は小学校のみ。

年間のスケジュール

1学期：9月1日～1月24日、
1月25日～31日期末試験、試験休み
2学期：2月10日～5月24日、
5月25日～31日期末試験、試験休み
夏休み：6、7、8月



ここが日本と違う！

小学校3年から英語

- ① 理科の授業がない。
- ② 給食がない。学校に給食施設がないので、生徒は家に帰って食べる。遠くから通う生徒はお弁当を持ってくる。
- ③ 小学校3年から英語を習う。
- ④ ハンドクラフトの授業がある。竹やココナッツの殻、バナナの葉等で籠や帽子、動物や虫の作り方を習う。
- ⑤ 長期の休みは夏休みだけなので、夏休みが長い（この間、子どもたちは働く）
- ⑥ 体育に体操着がない（通常はTシャツ。靴はサンダルが一般的）
- ⑦ 義務教育であるにもかかわらず、試験の結果が悪いと落第する。





カンボジア

小学校6年、中学校3年、高校3年、
大学4年制。
義務教育は小・中学の9年間。

【小5-6の午前の時間割の例】

		月	火	水	木	金	土
1	7:10~7:50	保健体育	カンボジア語	カンボジア語	環境の日 補習授業	保健体育	カンボジア語
2	7:50~8:30	カンボジア語	カンボジア語	カンボジア語		カンボジア語	カンボジア語
3	8:45~9:25	算 数	算 数	算 数		算 数	算 数
4	9:40~10:20	理 科	算 数	理 科		理 科	社 会
5	10:20~11:00	社 会	社 会	社 会		社 会	理 科

年間のスケジュール

1学期：10月1日～2月28日、試験12月～1月頃
2学期：3月1日～7月31日、試験6月頃
夏休み：8～9月
短期休み：4月5日～19日



ここが
日本と違う!

木曜日は「環境の日」

- ① 先生の数が少ないため、授業は午前か午後のシフト制。例えば、10月が午前なら11月は午後になる。授業は午前か午後なので給食はない。
- ② 毎週木曜日の午前2時間に全校生徒が学校の掃除をする。
午後は学習の遅れている生徒を対象に補習授業をする。
- ③ 体育の先生が不足していて、他の教科の先生が兼任している学校がある。兼任の体育の先生すらいない場合、授業外に校庭で自由にスポーツをさせるだけの学校もある。
- ④ ラオス同様、試験の結果が悪いと落第する。
- ⑤ 理科の授業はあるが、実験道具はない。





北部からじわじわ洪水が
浸水したバンコク



タイ事務所前の道路

奨学金
対象地区も
直撃

タイ・カンボジアで大洪水

ここ50年で最悪の洪水に見舞われているタイは国土の3分の1が水没し、7月から10月末までの間に死者は370名以上に達しました。タイの事務局（EDF）はバンコク北部にあるため、洪水でバンコクが浸水した際、最も早い段階で被害を受けました。3分の2のスタッフがの家は1～1.5mの床上に避難しましたが、EDF事務所スタッフの努力でスタッフ全員の安全地帯や他県の親戚に避難場所でも仕事ができようにし、通常の仕事をやり遂げました。自宅が浸水したため、事務所に泊まりこんで仕事をしたス

タイ洪水
緊急支援募金

緊急支援
受付中!

この50年間で最悪なタイの洪水
今度は日本からの支援を
※詳しくは民際センターホームページをご覧ください。
www.minsai.org

はバンコク北部にあるため、洪水でバンコクが浸水した際、最も早い段階で被害を受けました。3分の2のスタッフがの家は1～1.5mの床上に避難しましたが、EDF事務所スタッフの努力でスタッフ全員の安全地帯や他県の親戚に避難場所でも仕事ができようにし、通常の仕事をやり遂げました。自宅が浸水したため、事務所に泊まりこんで仕事をしたス

タイ東北地方も洪水被害

奨学金を提供している東北地方も、県によってかなりの被害を受けています。通常、タイは10月の1カ月、学校はお休みですが、EDFスタッフが被害状況把握のため東北地方の各学区の担当者に連絡したところ、ウボンラーチャターニー県の先生から、学校が洪水で浸水している旨の連絡と共に、右の写真が届きました。写真を撮った当時、学校はお休みで生徒は1人もいませんでした。洪水の被害状況によっては、11月1日から始まる新学期を延期した学校もありました。幸い、奨学生が被害を受けたという連絡は入っていません。



ウボンラーチャターニー県の学校



水没するコンポンチュナン県



舟で通学する生徒たち

カンボジアも多大な洪水被害

メコン地域に降った長雨はタイだけではなく、カンボジアにも多大な被害をもたらしました。学校も数多く被災し、また、多くの教室が避難所として使われたようです。奨学金を提供している中部のコンポンチュナン県も甚大な被害を受けたため、カンボジア事務局スタッフが同県に出向き、子どもたちの被害状況を調べました（以下の写真は同スタッフが撮影）。付近一帯が浸水した学校では、生徒たちは舟で通学していました。米の収穫期直前の洪水被害で、農民の生活に大きな支障が出ています。

ミャンマーとベトナムでも奨学金事業をスタート

理事長 秋尾晃正

「民」の反対語は「官」で、「民際」の反対語は「国際」です。国際の英語はInternationalで国と国の関係です。「民際」は国と国ではなく民と民との関係で、民が地球的規模でモノを考え、草の根レベルでの問題解決に取り組む概念です。民際センターは「教育」支援に特化しています。教育支援は自立を促す最善の国際協力であると考えます。



ミャンマーの子どもたち

国際協力に先進国は巨額なODA(政府開発援助)予算を注ぎましたが、最貧国は未だに最貧国で、むしろ貧富の格差は拡大しています。しかし現在、ギリシャのみならず巨額な累積赤字を抱えた先進国はODA予算の確保どころではない状況です。

一方、日本ではこのところの超円高傾向で、日本の中小企業の海外移転は加速。移転の方向は欧米や中国でなくタイを中心としたメコン五ヶ国に的が絞られているようです。タイには7千社の日本企業が既に存在しますが、これからはタイのみならずラオスやカンボジアにも目が向けられるはず。ミャンマーも中国のダム建設に「ノー」を宣言しました。脱中国の風がミャンマーに「春の風」をもたらすかもしれません。

私が長年の海外滞在から帰国した翌1979年に北海道国際交流センターを設立し、在日留学生と北海道の人々との草の根交流を開始しました。年々事業が拡大しつつあった当時、帯広畜産大学の田島重雄教授にいろいろと助言を頂きました。その時以来のお付き合いですが、田島先生が2011年に90歳で「経理学徒兵のビルマ戦記」(右写真)を出版されて、初めて先生の青年期の実体験を知ることができました。戦争中、先生はミャンマーとかかわりを持ち、戦後「ミャンマーに学校を建てる会」を主宰し、東京農工大学の先生の教え子であるヌットさんが現地で事業を行って来ました。今年の10月、先生のご紹介でヌットさんがバンコクのEDF事務所を訪問。日本語・

英語のみならず、タイ語も堪能で、意気投合し、EDF-ミャンマーの設立に合意しました。中学への就学率が5割程度のミャンマーも教育支援が必要であるとずっと思っていました。「この人なら信頼できる」と判断し、2012年度から中学生に奨学金を提供することになりました。同時期に日タイ合同でベトナムの調査も実施し、2012年度から同国の中学生にも奨学金を試験的に提供することに決定しました。

25周年を契機として、メコン5カ国と教育支援の重要性と民際の意義を広く日本の人々にアピールし、民際運動を広げていきたいと思えます。

本の購入代金が、

ミャンマーの奨学金になります

本を購入し、ミャンマーの最初の奨学金をご支援ください。ご購入希望の方は郵便振込(加入者名 民際センター □座記号番号00180-1-42721)で2,310円(送料込)をお振り込み下さい。本代はミャンマー奨学金になります。

幸福のおすそ分け

～父が訪問したラオスの村を訪ねて～

作家 横松 心平

父・立松和平が、亡くなる五か月前に行ったのがラオスであった。民際センターのスタッフとともにハドシェンヂー村を訪ねた模様は、「微笑の国からの幸福のおすそ分け」という雑誌記事にまとめられた。自分が奨学金を支援している子どもに会い、村人たちに歓迎を受け、奨学金の授与式に参加し、「たくさんの笑顔に囲まれて、私も幸せだった」と書いている。

今、読みなおすと、父は幸福な思い出をひとつ増やして逝ったのだということがわかり、安堵する。ぼくもその村を訪ねてみたくなり、民際センターに連絡した。快く申し出を受け入れていただき、ハドシェンヂー村へ向かった。

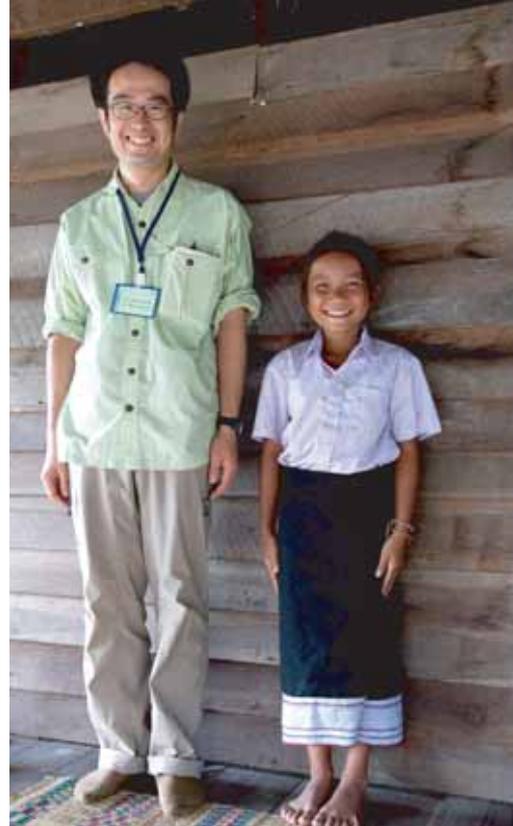
折しも村周辺は洪水にあっており、車で行くべき道を船で行くことになった。湖のようなところを進みながら、ここが道路だと言われても信じ難かったが、確かに水中から電柱が突き出している。こんな非常事態でも、誰も緊迫していないところが愉快だった。

村に着くと、村長、校長先生ら大勢の村人に迎えられた。早速、父がドナーだったソンサワンちゃんに会いに行った。父のことを覚えていると言う。勉強はそれほど難しくなく、国語が好きだと頼もしい答えだった。学校に行く前、帰ってからは、水汲み、薪拾い、もち米蒸しなど家事に忙しいそうだ。両親は出稼ぎに行っているという彼女の夢は、父が訪ねた二年前と同

じく先生になることだった。夢を持つこと。そして、努力すること。その努力ができる環境を整備するお手伝いが、奨学金なのだということがよくわかった。

様々な縁の結びつきによって、ラオスの少女と会っていることの不思議を思った。一度出会った人は、心の中に居場所ができる。ソンサワンのことも、ハドシェンヂー村のことも、忘れることはできないだろう。奨学金のおかげで、異国の子どもとの結びつきができたことに感謝したい。ぼくも、確かにおすそ分けをもらったのだ。

●写真撮影は保莉徹也氏（立松さんの写真は除く）



ソンサワンと横松さん



立松さんとソンサワン母子（2009年9月撮影）



夜は村人が集まり、歓迎の儀式を開いてくれた（上側左から2番目が横松さん）



洪水のため湖のようになった道路を船で行く

書き損じハガキ収集で 11年間に 延べ141人を支援



キヤノンでは「共生」の理念のもと、「文化、習慣、言語、民族を問わず、すべての人類が末長く共に生き、働いて幸せに暮らしていける社会」の実現に向けて、世界各地で人道・災害、環境保全、社会福祉、地域社会、教育・学術、芸術・文化・スポーツなど様々な分野で社会文化支援活動に取り組んできました。そのひとつが、書き損じハガキ収集によるタイ・ラオス・カンボジアの奨学生支援活動です。

書き損じハガキの収集は、身近で負荷がなく誰にでも簡単に参加でき「ボランティア活動のひとつとして社会貢献活動ができるのなら、捨てないで集めよう」と、1996年に社内で収集活動がスタートしました。

そして、2000年に250枚（当時）で1人の子どもが1年間学校に行けるダルニー奨学金に寄付を開始して以来、11年間で延べ141名の子どもたちに奨学金を提供し支援してきました。



特に2005年～2009年には収集枚数が毎年10,000枚を超え、2007年には最高の13,235枚も集まりました。2011年度は9,000枚のハガキを集め、タイ24口・ラオス9口の奨学金になりました。

毎年、年賀はがきが出回る時期に、社会貢献推進課より社員に向けて社内イントラと社内報で告知を行います。年末から年始にかけて、呼びかけに応じて社内で収集された書き損じはがきは、郵便局で切手に交換して民際センターに送付します。

支援国から送られてくる奨学生の子どもたちの写真・教室やクラスの様子、御礼のメッセージなどを、社内イントラで社員に紹介しています。収集活動に参加した社員は、奨学生の子どもの顔写真や教室の様子を見て、子どもたちの成長ぶりを知ることができ、支援の意義・成果を感じることができます。

世界と地域を視野に、社会に貢献する「良き企業市民」をめざすキヤノンは、書き損じハガキの収集による奨学生支援活動を、これからも継続してまいります。



2011年度にキヤノンが支援したタイ奨学生9人のうちの2人(上)とラオスの奨学生5人(下)

書き損じハガキ等で国際協力

書き損じハガキや未使用切手・テレカ、古本や使用済みインクカートリッジなどを集めて民際センターの事務所までお送りください！少数でも結構です！換金後、奨学金など現地支援に活用させていただきます。

送り先：〒162-0801

東京都新宿区山吹町337

江戸川橋東誠ビル5F

一般財団法人民際センター

10年間にわたる支援でタイの女性が大学を卒業

支援者の中野秀俊さんがタイに行き、卒業式に出席

TDK勤務の中野さんは、海外赴任でタイから戻ってきた上司の柳沢さん（佐久平ドナー連絡会世話人）から、ダルニー奨学金とタイの子どもたちの状況について話を聞きました。そして「顔の見える支援」「魚ではなく釣竿を提供すること、即ち、教育こそ子どもの夢を叶える」という話に共感し、2001年から支援を開始。その最初の奨学生がヌイでした。支援開始以来、中学高校時代は手紙でやり取りし（6年間で100回以上）、大学以降はメールで交流。その間3回、タイを訪問してヌイに会いました。最初の訪問でヌイをはじめとするタイの子どもたちの笑顔と澄んだ目を見て、支援の継続を決めました。ヌイは真面目で勉強好きで、学校の成績は常に上位。本人、親、先生と相談して高校・大学の支援を約束しました。経済的に貧しいヌイは、お父さんが亡くなって、さらに経済的に厳しくなる中、本人の頑張りの中野さんの支援で今年10月、バンコクにあるKrikk大学を卒業しました。

佐久平ドナー連絡会の仲間2人と参加した卒業式で、中野さんはヌイにお祝いの言葉を送りました。「お

めでとう！あなたからの手紙に『人生というドラマの主人公は私、監督も私です』と書いてあったけど、その気持ちを忘れず、これからも夢を追い続けてほしい」。中野さんにとって、この卒業式は「日本の父親」としての誇りと喜びに満ちた、忘れられない日になりました。



中野さんとヌイ。卒業式で



カンボジア政府より
金メダルを受賞

民際センターはカンボジアへの奨学金支援を2003年より試験的に開始し、2007年より首都プノンペンにEDF-CAMBODIAを開設して正式事業として推進しています。これまで延べ4千人以上の奨学生を支援しました。その功績に対し、このたびカンボジア政府より金メダルを授与されました（中央左はカンボジア王国社会省大臣）。これは支援者の皆様お一人お一人を代表して受賞したものと心より感謝申し上げます。

マザーカレッジから
ご支援いただき
ありがとうございます



左が江藤さん、
右が民際センター職員の本田

サイタコーディネーション代表の江藤真規さんはダルニー奨学金の支援者です。先般、主宰するマザーカレッジで、ダルニープレートの協力を参加者に呼びかけていただきました。「マザーカレッジは、コーチングをベースとしたペアレンテーションを学んでいただくマザーのための学びの場です」。

<http://saita-coordination.com>

ポケットプラザが始まりました!

第1回は

チャリティ・ タイ料理教室



赤いエプロンが西大路さん

楽しみながら国際協力に参加でき、参加者の交流の場を作ることを目的に始まった民際センターの小さなイベント『ポケットプラザ』。その第1回目の「タイ料理教室」が10月18日、東京・練馬区公民館で開催されました。講師はダルニー奨学金の支援者で、地元で120回ものタイ料理サークルを開いている西大路有紀子さん。参加者はドナーの方や初めて民際センターを知った方など計12名。西大路さんの丁寧な説明とデモンストレーションを参考にグリーンカレーとタピオカのココナッツミルクを作りました。

カレーペーストを炒めるとものすごい煙に。でも「市販のペーストもこうやって料理するとこんなにおいしくなるんだ!」と一同驚きました。一人で参加され

た方も、最後には皆さん和気あいあいとお食事をされました。「感動のおいしさ!!」の声にスタッフも感動です。

今回の参加費は2,900円。西大路さんの心意気で講師料なし、会場費も材料も西大路さんのツテで安く抑え、合計で16,570円もの奨学金になりました。

ポケットプラザは毎月開催します。第2回「ラオス、カンボジア、タイのコーヒー飲み比べ」(11月15日)、第3回、4回は連続でプロのカメラマンによる写真教室を実施する予定です(1月、2月)。このほか、楽しく学べる企画が続々登場します! ポケットプラザはHP、メールマガジンなどでお知らせしていきますので、ご興味のある方はご友人を誘って、ぜひご参加ください。



地元の新聞に

支援を呼びかける投稿をしていただけませんか?

9月26日の朝、事務局の電話が鳴りました。「熊本日日新聞を見て電話をしたのですが、資料を送ってくれませんか」。早速、同新聞社に問い合わせると、読者の投稿欄にドナーの廣野み子さんによる「貧しい子らの夢をつないで」という記事がありました。「13年前に本紙の記事で……タイの女の子の里親になりました。……ところが、里親になって以来初めて『緊急のお願い』という文書がセンターより届きました。今回の東日本大震災の影響もあって、ラオスで389名分、カンボジアで282人分の奨学金が不足しているそうです。きっと被災者中にも……支援を続けたくてもできなくなった方の気持ちを引き継ぎ……民際のホームページにアクセスしてみてください。1人でも多くの子もたちの夢を、

未来につなぐために」。

ほとんどのNGOは広報費をねん出できず、活動やイベントを取り上げてもらうしか新聞掲載のチャンスがありません。ダルニー奨学金を支援する方の数が年々減少する中、弊センターも記事を掲載してもらうように必死の努力をしていますが、なかなか掲載されません。

そこで、支援者の皆さまにお願いがあります。地元の新聞にダルニー奨学金に関する投稿記事を書いていただけませんか? 投稿を読んで読者が「支援してみよう」と思う内容ならなんでも結構です(支援のきっかけや体験など)。そして、もし記事が掲載されるようでしたら、事務局にご連絡ください。ぜひ皆さまのご協力をお願いします。

サポーターズNOW!

佐久ダ連、ガンバっています!



佐久ダ連参加メンバー

10月2日(日)に「国際交流フェスティバルin佐久」が佐久市にて開催されました。

国際交流フェスティバルは佐久市内に滞在する外国人の各国紹介と、佐久市内で活躍する国際支援ボランティア団体が活動報告と活動資金獲得のバザーなどを行うお祭りで、来場者は2,800名でした。

佐久平ダルニー連絡会は10年間連続の参加で、ブースでの活動展示とバザーを行いました。本年は佐久ダ連が支援してきた10年間の奨学生の顔写真の添付した奨学証書50枚を展示し更なる支援をアピールしました。奨学金確保のためメンバー手作りのケーキやビーズ細工、キャンドルの他、ホウレン草、白菜、長ネギ、じゃが芋、等の野菜の販売を行いました。天候不順による野菜の高値を受けて100円均一(市場価格の1/3)での野菜販売は大人気でした。ダルニープレートでの寄付金活動も行い合計で5万円を超える売り上げがあり、今年も奨学金を提供することが出来ました。

「ムエタイ」の試合でブース出展

9月11日(日)東京・ディファ有明で開催された「M-1 FAIRTEX ムエタイチャレンジ『RAORAK MUAY vol.1,3』」に民際センターが協賛し、ブース出展しました!

会場では募金箱やダルニープレートでタイ奨学金を募り、アライドコーポレーション様からご提供いただいた「タイの台所」も販売しました。試合終了後、出口でボランティアで参加した学生たちに募金箱を持って寄付を募ってもらいました。これらの活動の結果、合計51,157円もの募金が集まりました。



この募金全額をタイの子どもたちの奨学金として使わせていただきます。ムエタイのイベントは年4回開催されます。ムエタイジムを運営しているWSR(会長:ウィラサクレック・ウオンパー氏(タイ ヤソートン県出身)、本イベントを主催するM-1MCのご厚意で、今後もブース出展をさせていただきます。ご興味のある方は、ぜひ足をお運びください。



ムエタイのイベントは年4回開催されます。ムエタイジムを運営しているWSR(会長:ウィラサクレック・ウオンパー氏(タイ ヤソートン県出身)、本イベントを主催するM-1MCのご厚意で、今後もブース出展をさせていただきます。ご興味のある方は、ぜひ足をお運びください。

グローバルフェスタに出展



2011年10月1日(土)、2日(日)の2日間、東京、日比谷公園にて「グローバルフェスタJAPAN2011」が開催され、民際センターもブース出展しました。今年のグローバルフェスタ JAPAN2011は、「絆 ～ 私たちはつながっている 世界は日本とともに。日本は世界とともに。」がテーマ。弊センターもブース内にて、東日本大震災への取り組みを展示しました。また、今回は、「ボランティア精神あふれる」活動をすることができました! 寄付をして下さった来場者の皆さんはもちろんのこと、「タイの台所」を物品提供して下さったアライドコーポレーション様、東日本大震災の写真を貸して下さった上田聡さん、早稲田大学、筑波大学、慶応大学の学生ボランティアの皆さん、また、民際センターの支援者であり、10月2日(日)に、本イベントに出演されたNGOゴスペル広場の皆さん、そして、長年にわたり民際センターを支援して下さっているドナーの皆さんに積極的にご参加いただきました。2日間のイベントで集まった金額は、合計:70,220円。イベントのテーマ同様、皆さんの「絆」を感じることができました。本当にありがとうございました!

ラオス・カンボジア 奨学金緊急募金キャンペーンの結果報告

東日本大震災の影響で、締切を9月30日まで延長したラオス・カンボジア奨学金緊急募集キャンペーン。残念ながら目標値は達成できませんでしたが、延べ500口を超える奨学金が集まり、就学を希望する多くの子どもが学校に通えるようになりました。

皆さまのご協力、誠にありがとうございました。

●ラオス	目標 389	結果 370
●カンボジア	目標 228	結果 138

ダルニープレート活用キャンペーン

お申込みは
Eメール電話・FAXで



100円玉100個集めて、ラオス・カンボジア・タイの子ども1人が1年間学校に通える新しいカタチの募金プレート

事務局活用リスト

事務局ではさまざまな資料やサービスを用意して、ドナーの皆様の
お問い合わせやご要望にお応えしています。
※ご利用につきましては、以下の要領でご連絡願います。

地域で奨学金や図書セットを広める活動をしたい

- ① 書き損じハガキ・未使用テレカの収集
- ② 使用済みインクカートリッジの収集
- ③ パンフレットまたはリーフレットの設置
- ④ 不要な本を集めてブックオフに送る
- ⑤ 募金箱を設置したい

お気軽にお電話またはメールでお問い合わせください。折り返し資料などをお送りします。また、ホームページでも紹介しておりますので是非ご覧ください。

奨学生や現地のビデオを見たい

DVDは現地情報満載の広報ビデオ(13分)。パネルを貸し出すこともできます。送料は負担願います。

個人でタイを訪問し、奨学生に会いたい

80円切手を貼った返信用の封筒をお送りください(メール可)。折り返し、資料をお送りします(3~5月と10月、学校はお休みのため訪問できません)。

タイの奨学生と文通したい

- ① 手紙の翻訳
- ② タイの切手購入

- ① : タイ語→日本語に翻訳します。手紙の原本と80円切手4枚を同封して送ってください。
- ② : タイ切手セット(12回分1000円)の代金は郵便定額小為替か現金でお願いします。80円切手を貼った返信用の封筒も同封してください。
※奨学生の氏名をカタカナで読みたい方は、電話、メール、ファックスでお問い合わせ下さい。

国際事務局でボランティアをしたい

PC入力、DTP経験者、事務作業など。電話またはメールで担当、関口までお問い合わせください。

奨学金の説明を聞きたい

事務局では随時無料説明会を行っています。参加希望の方は必ずご予約ください。

毎年忘れずに送金したい

お申し込みいただければ、自動振込用紙(ゆうちょ銀行)を無料で送付します(タイのみ)。

編集
後記

9月にタイ東北地方の農村部を訪ね、1泊しました。3年ぶりの訪問ですが、貧富の差が一層拡大している印象を受けました。脇道を奥へ奥へと入って行って訪問した4人の奨学生の家は、壁や屋根がトタン板を組み合わせただけだったり、木材でできた床に大きな穴が空いて家がぐらぐらしていたりしました。バンコクに戻った翌日、スラムの友人宅を訪ね、夕食をご馳走になりました。そのスラム全体は湿地帯の上であり、1人がどうにか歩ける狭い路が迷路のように続き、その路の両側にバラック小屋の家がギュウギュウ詰めに建っています。友人宅の床と狭い路は同じ高さにあるので、家の前を通る人は家内にいる私たちを見降ろしながら通過します。このような状態であるにもかかわらず、奨学生のお母さんの中には、笑顔を絶やさない元気な方がいらっやいました。スラムのお母さんも、数年前に長女を亡くし、次女が足に障害を持った子ども(お母さんにとっては孫)を家に残して失踪したりしているにもかかわらず、元気いっぱいでした。彼女たちのパワーと楽天性は一体どこから出てくるのでしょうか…。いつもながら今回も、タイの女性に圧倒された出張でした。(富)



一般財団法人
国際センター

ダルニー通信 第64号 2011年12月1日発行 発行人：秋尾晃正
一般財団法人国際センター 〒162-0801 東京都新宿区山吹町337 江戸川橋東誠ビル5F
TEL：03-6457-5782 FAX：03-6457-5783
Eメール：info@minsai.org ホームページ：http://www.minsai.org/
振替口座：00150-0-57664
表紙：ラオス 撮影：渡部 明浩

— 紙面レイアウト協力 —

吉田シャシヨク 福岡県大牟田市小浜町1-5-17 ☎944-51-8604



子どもたち全員の身長・体重を測りました。

SPOT LIGHT

ラオスの子どもたちの食生活



栄養についてどのくらい知っているか、簡単なテストをしました。協力し合って真剣に答えてくれたけど…。間違いだらけでした。

ラオスの村の食事は、主食のもち米とその時手に入った川魚、カエル、野菜などを使ったおかずが1品程度。食材毎に異なる栄養素が含まれることもあまり知られていません。そこで、子どもたちがどのような食生活をしているのか、学校ではどの程度栄養や衛生の授業をしているのかを調査するためラオス、カムアン県の村に行ってきました。



子どもたちの両親にも、普段の食生活や栄養の知識についてインタビューをしました。



学校でお昼を食べる子ども達。お弁当はご飯とおかずの小エビ。小エビは3人で分け合って食べます。



子どもたちは偏った食生活を送っていました。この状況を改善するため、学校で給食を出しながら栄養や衛生について教えていくプロジェクトを計画中です。